



山楸
 太史
 岩城實記
 七八

~ 13
 3304
 4



118
3304
4

油清



芳体実紀巻之七

目録

大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

東京
池田屋清吉

一 千代能ちよめのみめ能ひやま多ひやま屋やまがい銘いよいのい事

系千代能ちよめのみめ能ひやま酒い名いをいもいてい款いをい計

子集

池清

定時実記巻之七

千代能姫多座が階へ上り事

系千代能姫は色をとりて歌を討
る事

されむ千代能姫が肉を食む事

けし小技をとり時宿の

主人をよびし中り事

池清

定時実記巻之七

池清

池清

この四方に 都あり 又 母あり
あぐれのみ 伯母君の侍
よき侍あり 少舞の
上侍あり 世にたる 業あり
公 柳子あり 世に
よき 父母の業
提の 名に 坂に
族父の 札に 世に

此の 世に あり
あぐれを 見る あり 世に
向ひ あり 都あり
うけた あり あり あり
また あり あり あり
あぐれ あり あり あり
また あり あり あり
よき あり あり あり

あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき

あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき
あまのこころをいかにせんか
うらみもなき舞のしほき

ちかちか〜とよからぬ〜
ちとちと〜とせ〜
ほろ〜と〜とあ
め〜と〜とあ
た〜と〜とあ
あ〜と〜とあ
せ〜と〜とあ
衣〜と〜とあ

い〜と〜とあ
ち〜と〜とあ
ま〜と〜とあ
た〜と〜とあ
ら〜と〜とあ
衣〜と〜とあ
た〜と〜とあ
衣〜と〜とあ
衣〜と〜とあ

た〜〜〜
てせとのせ〜
「笛の役小技」
とさた先〜
あ干を〜
ま〜の〜
笑〜
笑〜

わ〜
奥〜
跟の〜
と〜
白〜
座下〜
奥〜
ち〜

岩城実証卷一八

目録

一 千代能娘父と政少を了事
系岩城小次郎海津が追入を
拒む事

千代能娘文と教令をきく書

目録

山内実在巻八

千代能娘文と教令をきく書

山内実在巻八

山内実在巻八

さるるるるる。千代能娘と色

さるるるるる。千代能娘と色

山内実在巻八

色^{いろ}情^{せう}のたぢ^ぢる^るま^まど^どり^りされ^れ大^大
事^{こと}さ^さら^らせ^せれ^れ海^{うみ}に^に
う^うり^りる^る次^{つぎ}人^{ひと}あ^あり^り史^しと^とり^り
そ^その^のぐ^ぐよ^よめ^めさ^さら^らの^のお^おも^も
あ^あら^らま^まり^りく^く破^{やぶ}倒^{たお}れ^れ
う^う前^{ぜん}悟^とも^もま^まじ^じら^らし^し
り^りの^の算^{さん}も^もま^まじ^じら^らし^し
あ^あり^りよ^よの^の付^つき^き科^から^らあ^あら^らし^し

と^とま^まり^り一^一海^{うみ}息^{いき}を^をう^うり^り
ま^まの^の軍^{ぐん}師^しら^らの^の腰^{こし}に^にま^まを^をま^まし^し
南^{なん}聖^{せい}館^{かん}の^の端^{はた}を^をう^うり^り
そ^その^の技^{わざ}も^もう^うり^りの^の軍^{ぐん}を^を
こ^この^のち^ちり^りの^の題^{だい}も^もう^うり^り
て^て父^{ちち}を^をう^うり^りの^のま^まを^をう^うり^り
胡^こを^をう^うり^りの^のま^まを^をう^うり^り
悟^ごも^もう^うり^りの^のま^まを^をう^うり^り

るは 人 心 子 ありん
と
あや 次 あり
虎 子 虎 宮 子 の じん
と 千 代 能 殿 宮 子
男 子 子 子 子 子 子 子
あ 子 子 子 子 子 子 子

ま の 心 子 子 子 子 子
川 の 心 子 子 子 子 子
あ 子 子 子 子 子 子 子
東 の 心 子 子 子 子 子
の 心 子 子 子 子 子 子
と 子 子 子 子 子 子 子
と 子 子 子 子 子 子 子
と 子 子 子 子 子 子 子

一ヤセとのツ使あり地
用さしたる人といふも
おこ一宰舎るこ三よりて見
此ハ宰より云けし〜
兄〜
臨部〜
ゆ〜
磁〜
今

きひ〜
との〜
舌〜
りちる音〜
連のつれ〜
と接接〜
〜
と〜

柳の影に月くらのまき

やと浮き色と栢谷

いもの免あゆみ大塚

さうたしおぼろの

いづちあり傳ひの

るたれをくらわぬ

いづち遊程の

ういあーの

いづち

いづち

いづち

いづち

いづち

いづち

いづち

いづち

まゝりし手もる樹木も
とあひまをありしうらまの
谷かゝししきさみみ
たりし入の糸をい返のま
まちあひびあめのめ
まぐししきまらうけたり
荒中ありしうらまの
追ふ

鯨波のたのめしき
あゝ向ふの持るあ
はなと山風とあらう
一手の軍兵まうし
たせしあはなとあ
怖ししあはなとあ
まゝししあはなとあ
くまのあはなとあ

左刀ぬき 持ち 互殺地
としの 軍勢の
あり ちおま
先 あり 倍
城 あり 倍
率 あり 倍
小 あり 倍
と あり 倍

新 あり 倍
命 あり 倍
大 あり 倍
つ あり 倍
の あり 倍
の あり 倍
と あり 倍
と あり 倍
と あり 倍

烟を姫をこのおのり
さりやある常を千
さーさくちや〜
たりたぬとまを
のよるいびちま
道々の海はあ
身強るいよ
のま〜と

うちゆり〜
たゆ〜
あふ人をも
ちせのなる
道〜横
切〜
ち〜
ち〜

今津城のきし余入のしりき
あしりちあされりりりり
作しり命屋をたしり
卯しり陸軍ちひり
りりりりりりりりりりり
あしりりりりりりりりりり
しりりりりりりりりりりり
孫子がしりりりりりりりりり

知しり梅をまじりの理り
会しりりりりりりりりりり
と人教をりりりりりりりり
しりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりり

岩城実紀卷之八 年 池清

池清

